



平成 19 年 4 月 17 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 サ ダ マ ツ
代表者の役職氏名 代表取締役 貞松 隆 弥
社 長
(J A S D A Q ・ コード 2 7 3 6)
問い合わせ先 取 締 役 森 山 勇 二
経理財務部長
電 話 番 号 0 3 - 5 7 6 8 - 9 9 5 7 (代表)

特別損失の発生および業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえるとともに、当中間連結会計期間において特別損失を計上する見込みでありますので、平成 18 年 10 月 27 日に発表いたしました平成 19 年 8 月期中間（平成 18 年 9 月 1 日～平成 19 年 2 月 28 日）の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. (1) 平成 19 年 8 月期中間連結業績予想数値の修正 (平成 18 年 9 月 1 日～平成 19 年 2 月 28 日)

(単位：百万円、%)

	売上高	経常損益	当期純損益
前回発表予想 (A)	4,610	120	0
今回修正予想 (B)	4,016	39	△214
増減額 (B) - (A)	△593	△80	△214
増減率	△12.9	△67.1	—
(ご参考) 前期実績 (平成 18 年 8 月期)	7,619	101	△38

(2) 平成 19 年 8 月期中間業績予想数値の修正 (個別) (平成 18 年 9 月 1 日～平成 19 年 2 月 28 日)

(単位：百万円、%)

	売上高	経常損益	当期純利益
前回発表予想 (A)	4,340	115	△5
今回修正予想 (B)	3,999	82	△165
増減額 (B) - (A)	△340	△32	△160
増減率	△7.9	△28.1	—
(ご参考) 前期実績 (平成 18 年 8 月期)	6,625	196	110

2. 修正の理由

当中間連結会計期間における当社グループは、年間最大の商戦であるクリスマス商戦と正月商戦において物流体制の一本化に伴う商品供給体制の遅れと、連結対象子会社である株式会社SPAパートナーズの稼働の遅れにより、売上高が予想よりも下回ったことにより、売上高、経常利益が予想を下回りました。

一方、特別損失において主に以下の要因が発生したことにより、当期純損失は連結で△214 百万円、単体で△160 百万円となりました

3. 特別損失の発生について

(1) 棚卸資産の減耗評価損

財務内容の健全化を図るため、保有する棚卸資産について商品価値の見直しを当中間連結期間に行い、棚卸評価損を計上いたします。また、一部の棚卸資産につき物流トラブルやシステムトラブルにより著しい陳腐化が生じたこと等により棚卸資産減耗損を計上いたします。これらを棚卸資産減耗評価損として、176 百万円計上いたします。

(2) 店舗閉鎖損失

店舗閉鎖したことによる原状回復費および解約違約金 20 百万円計上いたします。

(3) 本社移転費用

本社機能を東京都目黒区に一本化するために要した、旧・東京支社ビルの解約違約金、原状回復費等の 14 百万円を計上いたします。

なお、通期の業績予想につきましては、下半期の業績の動向等を踏まえて精査中でありますので、確定次第発表いたします。

以 上